

## 栗駒山の火山活動解説資料（平成 30 年 11 月）

仙台管区気象台  
地域火山監視・警報センター

火山活動に特段の変化はなく、静穏に経過しており、噴火の兆候は認められません。  
噴火予報（活火山であることに留意）の予報事項に変更はありません。

## ○ 活動概況

## ・噴気など表面現象の状況（図 1、図 2）

大柳に設置している監視カメラによる観測では、噴気は認められませんでした。展望岩頭に設置している監視カメラによる観測では、ゼッタ沢上流で弱い噴気が認められました。

## ・地震や微動の発生状況（図 3）

火山性地震及び火山性微動は観測されませんでした。

なお、栗駒山周辺では、「平成 20 年（2008 年）岩手・宮城内陸地震」の余震域内で地震活動が続いています。

## ・地殻変動の状況（図 4、図 6）

火山活動によると考えられる変化は認められませんでした。



図 1 栗駒山 山頂周辺の状況（11 月 27 日）

- ・大柳（山頂の南東約 20km）に設置している監視カメラの映像です。



図 2 栗駒山 昭和湖及びゼッタ沢上流周辺の状況（11 月 7 日）

- ・展望岩頭（昭和湖の南南西約 900m）に設置している監視カメラの映像です。
- ・赤破線で囲んだ部分が、ゼッタ沢上流の弱い噴気です。

この火山活動解説資料は、仙台管区気象台のホームページ (<https://www.jma-net.go.jp/sendai/>) や、気象庁ホームページ ([https://www.data.jma.go.jp/svd/vois/data/tokyo/STOCK/monthly\\_v-act\\_doc/monthly\\_vact.php](https://www.data.jma.go.jp/svd/vois/data/tokyo/STOCK/monthly_v-act_doc/monthly_vact.php)) でも閲覧することができます。次回の火山活動解説資料（平成30年12月分）は平成31年1月11日に発表する予定です。

この資料は気象庁のほか、国土地理院、東北大学及び国立研究開発法人防災科学技術研究所のデータも利用して作成しています。

本資料中の地図の作成に当たっては、国土地理院長の承認を得て、同院発行の「数値地図 50mメッシュ（標高）」を使用しています（承認番号 平 29 情使、第 798 号）。

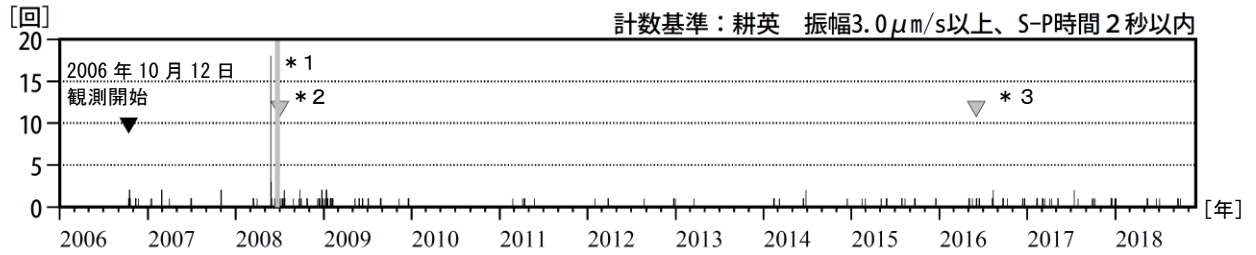


図3 栗駒山 日別地震回数（2006年10月～2018年11月）

- ・基準観測点の変更は次のとおりです。
- 観測開始 2006年10月12日～旧耕英観測点
- \* 1 2008年6月14日～7月2日18時（図の灰色部分）まで「平成20年（2008年）岩手・宮城内陸地震」の影響により観測不能
- \* 2 2008年7月2日～小安観測点（2010年10月8日まで）及び広域地震観測網
- \* 3 2016年6月1日～耕英観測点

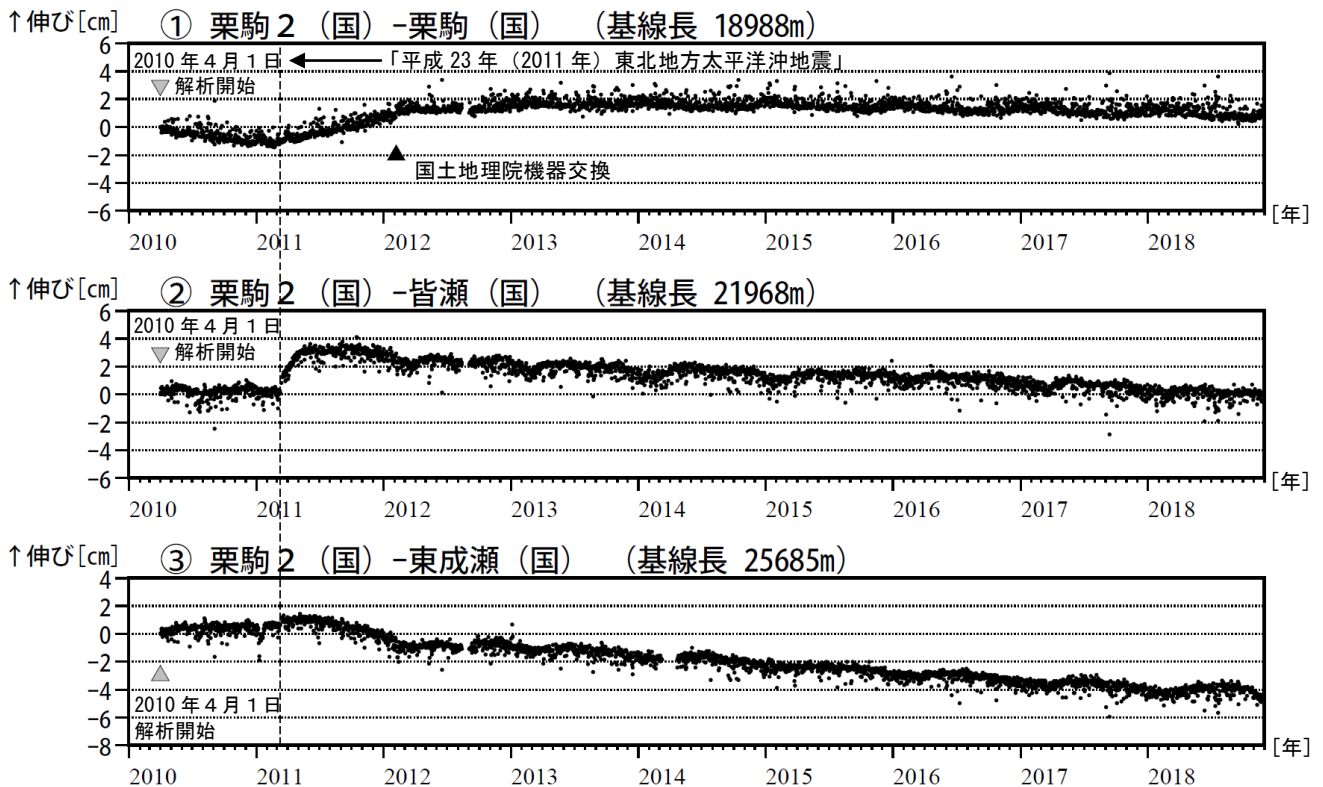


図4 栗駒山 GNSS<sup>1)</sup> 基線長変化図（2010年4月～2018年11月）

- ・「平成23年（2011年）東北地方太平洋沖地震」に伴うステップを補正しています。
- ・①～③は図6のGNSS基線①～③に対応しています。
- ・グラフの空白部分は欠測を表しています。
- ・（国）は国土地理院の観測点を示します。
- 1) GNSSとはGlobal Navigation Satellite Systemsの略称で、GPSをはじめとする衛星測位システム全般を示します。

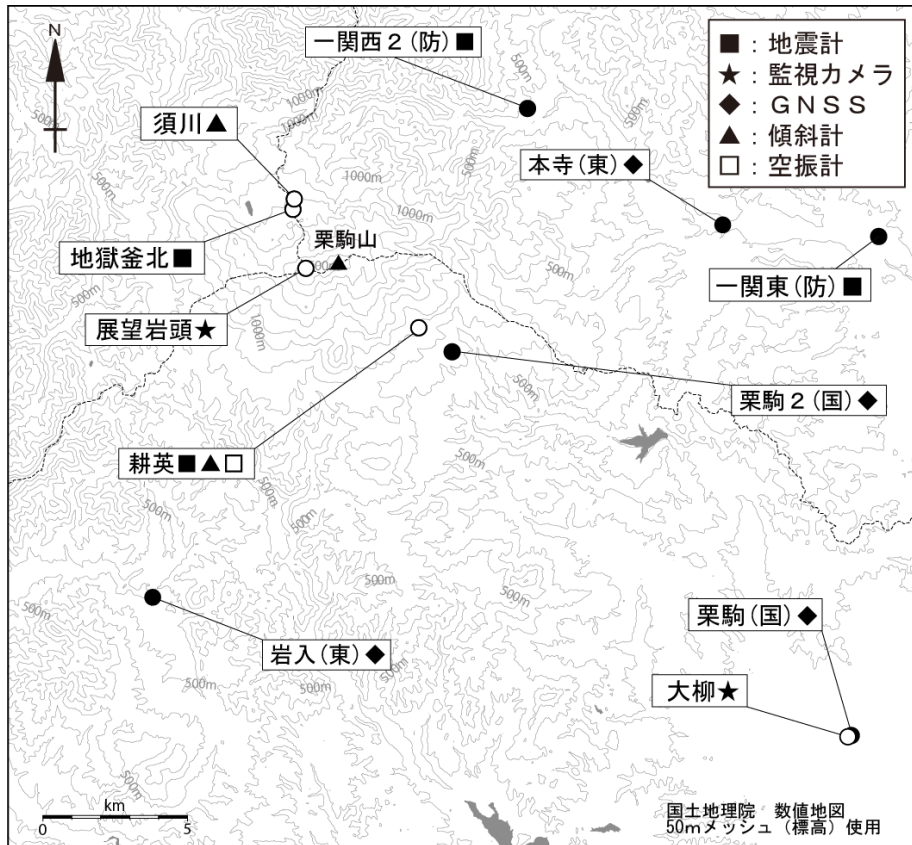


図5 栗駒山 観測点配置図

小さな白丸（○）は気象庁、小さな黒丸（●）は気象庁以外の機関の観測点位置を示しています。

（国）：国土地理院 （東）：東北大学 （防）：防災科学技術研究所

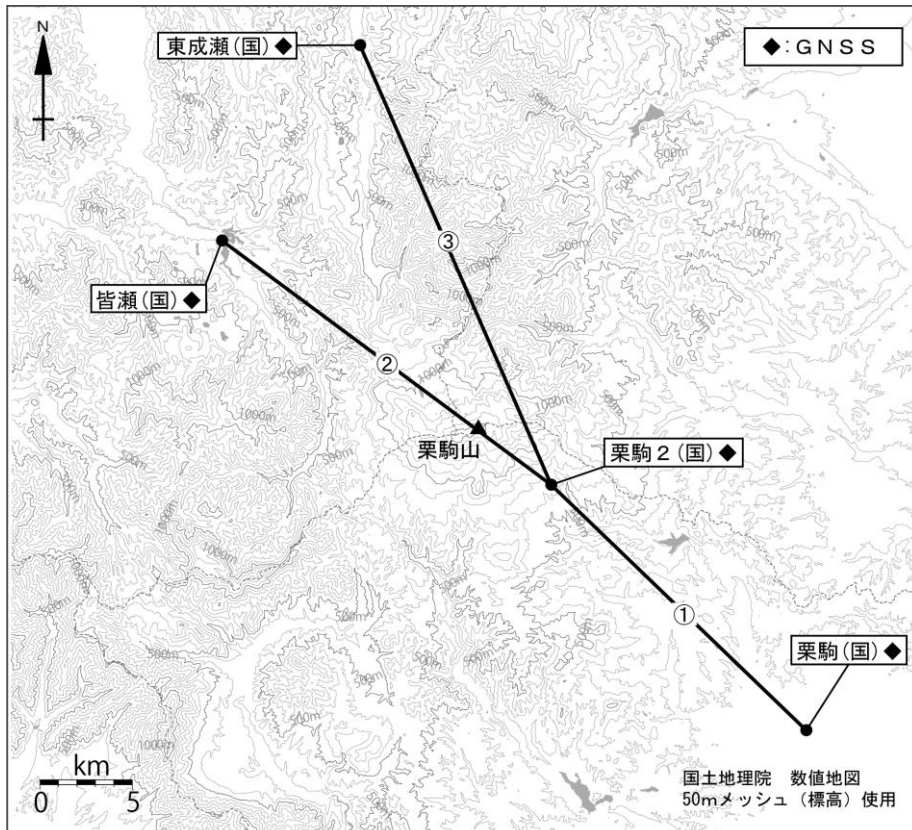


図6 栗駒山 GNSS 観測基線図

小さな黒丸（●）は気象庁以外の機関の観測点位置を示しています。

（国）：国土地理院